

身近の自然を楽しむ 立冬から1ヶ月の変化

Enjoy the surrounding nature:

Changes in 1 month from the beginning of winter

2022/12/17

吉野輝雄

今年の立冬(11/7)以後、気温が高い天気があり、冬に向かう気配が感じられない日が続いた。しかし、近隣の芦花公園内の木々の紅葉は進んでいた。大木の欒やプラタナスの葉が色づき、榎(なら)の木の葉が地面を覆っていた。日の出が6時過ぎになり、真っ赤な朝焼けに出会うことができた。1ヶ月過ぎる12月上旬には、銀杏の葉が黄に染まり、芦花恒春園内の徳富蘆花旧宅が鮮やかな紅葉で飾られた。そして今、園内の多様な木々は、強風が来襲する度に裸の枝に変わりつつある。

毎年12月になると点滅するイルミネーション付きのクリスマスツリーが児玉さんによって作られる。今年は例年よりも高いツリーで、サンタが(何と4人)登って行く姿と雪だるまの灯りが来訪者を迎えている。そして、12/17と18の朝、霜が降りた(約2cmの霜柱)。銀杏の葉が鮮やかな黄色に色づき地面を絨毯のように覆っている。その姿は、芦花公園の一押し景色ではないかと思う。

日本を代表する花がカメリア *camellia japonica* (サザンカ・山茶花とツバキ・椿) は、晩秋から冬にかけて咲く多様な色、形の花の一群だ。かのシーボルトも魅せられ、欧州に苗木を移植し、品種改良したことで有名。茶花は立冬の頃に咲き、派手さのないカメリアだが、侘び寂びを尊ぶ日本人に好まれている。年内はサザンカが多く、年明けから3月末までは椿が多様な花を咲かせる。カメリアは暗く寒い冬に耐え、心温めてくれる花と言える。

キク・菊は秋を代表する花だ。香りと美しい花が邪気を払い、長寿の効果があると言われて来た。11/3「文化の日」前後に行われる菊花祭では、1年かけて育て上げる豪華な大菊や菊人形を展示し、共に愛でるのが日本の文化となっている。しかし、野生の菊やヨメナ(嫁菜)のような菊にも素朴な魅力がある。今回、背の低いイソギク(磯菊)とはじめて出会った。その名の通り、犬吠埼のような強い海風を受ける海浜に咲く(邪気を寄せ付けない)野生種だと言う。

初冬(12月)に咲く人目を惹く花として皇帝ダリア、ツワブキ(石路)が挙げられる。しかし、今年は温暖化のせいかわ者とも11月中に咲き始めた。近隣で見た季節の果実がある: ミカン、ユズ、カラマンシー、キウイ(+柿)だ。今年、世田ヶ谷のミカンは豊作の様子。近隣の農家の軒先で売られている。ユズ・柚子には花柚子と本柚子がある。私は、砂糖漬けが好物だが、野菜サラダに刻んで加えるとサラダの味が引き立つことを学んだ。これまで好物のキンカンと思っていた柑橘類が実はカラマンシーであることを知った。東南アジアで栽培され、奇跡の果実と言われているそうだ。最後はキウイ、今や三鷹の特産で近隣の数軒の農家でも栽培されている。

先号の後1ヶ月間に季節は急速に変化し、暗く寒い冬に備えている。人の生活も決して縮こまることなく変化を楽しんでいる。木々の紅葉、落葉が目に入る自然の変化、寒さに負けずに咲く美しいサザンカ、椿の花、丹精込めて育てられた大菊や凛と咲く野生の菊の季節でもある。初冬の花・皇帝ダリアやツワブキも目が惹かれる。冬は多様な柑橘類、リンゴ等の果実の季節。 *Viva winter!*